
Judah ヌダ 番外

沖田 光海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

J u d a h ユダ 番外

【Nコード】

N 3 1 7 0 T

【作者名】

沖田 光海

【あらすじ】

J u d a h ユダ の番外編です

幼き日の話、まだユダがエールと名乗っていた時の話。

地下へ行ったエールの耳に入ってきたのは、空気を震わせずに彼女の頭に響いてきた不思議な声だった

彼女はその日、ふと昔のことを思い出した。
自信の相棒であり、かけがえの無い友人である彼との出会い。

城の地下に不思議な剣がある。

幼い頃、両親から聞かされた昔話を思い出し、エールは地下室へ探険に行った。

不思議な剣、強き力を持つというその剣を持てばアリアを守れるかもしれない。

思えばこのころの彼女は自身の姉であるアリアのことしか考えていなかった。

いや、今もあまり進歩は無いかもしれないが……

幼きエールは、地下のある一室の前で、誰かに呼ばれたような気がして止まった。

「……だれ？」

「……！……！！！」

声は聞こえない。

だが、確かに“呼ばれている”

エールは部屋の扉を開く。

部屋は狭く、大人の男一人寝転がるくらいがやっとだ。

「……だれ？ 僕を呼んでいるのは、誰なの？？」

「……ここです、ここ……！！」

「は？」

声のするほうを見ると、子供の身長くらいの細長い箱が合った。

「……？」

気になりあげてみるとそこには細身の剣が一本。

「……まさか、剣が喋るなんてことは……」

『やっと見つけてもらえた。呼びかけていた甲斐があったあ』
……あつた。

信じがたい現実を見て、エールは固まった。

『あれ、どうしたの？ エール……で、あっているよね？ エール、どうしたんだい？』

「……！ 剣が喋った！ いや、それはこの際どうでもいいとして、どうして僕の名前を知っているんだ！お前は何者なんだ！」

一気にまくし立てられ、剣は一瞬固まった。

『い、いくつもの質問を一緒にしないでよう。俺はこういったこと苦手なんだよ……』

「……君は何者だ？」

『俺は颯生さくせい。この国に祀られていた宝剣だった。』
祀られていた？
だった？

なぜ過去形なのかと聞くと、颯生は苦笑混じりに言った。

『戦争で俺を祀っていた社が壊れたんだ。それ以来この城で守られていたは良いのだけれど……どうも、俺の存在を感知できる人がいなくてね。』

「お前の存在？」

『ああ。どういう仕組みがよく分からないけれど、俺を扱う人間には俺の存在を感知できる人間が必要なんだよ。そして、俺の存在を感知した人間が俺と契約をして、俺を初めて扱うことが出来るんだ。』

少しさびしそくに颯生はそういった。

「……お前と契約をすれば、僕はお前を使えるのか？」

『まあ、ね。契約する？』

「それより、質問が先だ。どうして僕の名前を知っている？」

『貴方が生まれた時に一度あつたから、かな。』

「……？」

昔話をするように颯生は話し始めた。

『この城では、生まれたばかりの子供に俺の存在を感知できる人間がいるかどうか調べる儀式をするみたいなんだ。詳しいことは知らないけれど。その時に俺は貴方に会った。適正があると判断された貴方が成人したら、俺を貴方に授けるつもりだったみたいだけれど……』

「そう、か。なあ、颯生。」

『はい？』

「契約をしないか？」

『え……？』

このときエールは力を欲していた。

幼きにして王位継承問題で命を狙われているアリア。エールは彼女を守りたいと思っていた。

「できるか？」

『いいですけど……結構きついですよ？』

「かまわない。」

エールの瞳は強い光をはなっていた。

『わかりました。』

彼と契約を交わした後、エールはナツシユと名を変え、男装してアリアを守る兵士となった。

それ以来、颯生はずっと彼女とともにいた。

名を変え、性別を隠した時も、ずっとずっと……

あの日から貴方と闘うことを誓いましたから。

颯生は笑って言った。

自らに芽生えた、別の感情を隠しながら……。

「僕の相棒はお前だけだ」
パートナー

その言葉を誇りに思っ……

(後書き)

宣言通り(？)番外編を書きました。

いえ、別に書いてほしいという声はなかったのですが、勝手に書いてみました。

ユダの名前、について、書いている間苦労しました。

普通に「ユダ」と打ち込むべきか「エール」と打ち込むべきか…、と考えた結果、エールにしました。

自分で考えた設定とは言えややこしいな。名前が三つもあるなんて……

名前と言えば気付かれた方もいると思いますが、この三つの名前にはちゃんと意味があります。

エールは音楽からとりました。アリアと同様です。

ちなみにエールにはもうひとつ意味があつて、ヘブライ語で神、です。

ナツシユは守護という意味で、ユダは前に書いたとおり、裏切り者のユダからとりました。

颯生はもともと臯という字でした。

が、性格を変える段階でなぜか颯生に……

この名前は昔書いた小説の登場人物から使いまわしました。

言われずともがな、意味は五月です。

ここまで読んでくださった皆様本当にありがとうございました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3170t/>

Judah ヌダ 番外

2011年10月8日15時28分発行